

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。

紹介する民話は、子どもたちに、ふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

松浦の民話④

きつねのお産



昔、大岳の山の中に、仲のよい夫婦のきつねが住んでいました。子ウサギをとったり、きつねついた小鳥をつかまえたりしては、仲よく分け合って食べ、楽しい毎日を送っていました。およめさんきつねのお腹には、赤ちゃんができていました。

ある夜、およめさんきつねの赤ちゃんが生まれそうになりました。苦しみながら、うんうん言って赤ちゃんを産もうとするのですが、何しろはじめてのお産なので、なかなか生まれません。おむこさんは心配そうに、その周りをぐるぐる回ってはげますのですが、どうしても赤ちゃんが出てこないのです。およめさんの苦しむ様子が、あんまりかわいそうなので、

「里に下りて産婆さんばよんで来る。こんまんまじやおまえは死んでしまふ」と、言いました。「人間の産婆さんの、きつねのお産に来てくるるじやろか」と、およめさんが苦しい声で言うと、「人間に姿をかえて行く。おまえもきつねが、ちょっと人間に化けとけ。このほら穴ば人の家に変えて、明かりは小そうして、周りは暗うしとくせん心配せん待つとけ」と、おむこさんは大急ぎで里へ下りて行きました。

もう真夜中になっていました。里に下りたおむこさんは、やさしいと評判の高い産婆さんの家へやって来ました。

「夜中にすみませぬ。お願いします」と、とんとん戸をたたくと、

「どなたですか」と、返事があり、戸が少し開きました。

「赤ちゃんが生まれかかるといじやが、なかなか出てこんとじやす。早う来ておくれませ」

きつねは、一生けん命頼みました。

「そりや、おとこじやすな。すぐ行きまっしょ」産婆さんは、用意をすると外へ出ました。

見ると、ちょうちんを下げた小男が立っていました。

「さあ、行きまっしょ」

小男は、先に立って山道を登って行きます。あまり人気のない山おくの方へ行くので、産婆さんはちょっとおかしと思いました。

「遠かどこじやすな。名前は何ていわすじやすきや」と、たずねますと、小男はあわてたように、

「名前だけは、かんべんしておくれませ。そんなかわり、お礼ばよけいしますせん」と、答えました。

「とつせん、森のがけの近くに、一けん家があらわれました。」

「へえ、こぎやん所にいつん間に家の建つたとしやろか」と、思いましたが、家の中に急いで入ると、

苦しんでいるおよめさんのそばへ行きまし。お湯をわかすように小男に言いつけると、すぐにおよめさんの手当てに取り掛かりました。さすが、長い間の仕事にうちこんできただけあつて、産婆さんのうでまへは見事でした。

間もなく、あれほど苦しんでいたおよめさんから、まるまる太った赤ちゃんが生まれました。

「ありがとうござした。ありがとうござした」小男は飛び上がって喜び、何度もお礼を言いました。

「よかつた、よかつた。それじや、ぼちぼち産婆さんが言うと、

「こりや、ほんのお礼のしるしじやす」

小男は、ぶ厚いのし袋と、おいしいごちそうの入った折り箱をさし出しました。

「おやまあ、こぎやんいっばいに。せつかくですけん、遠りよのういただきませ」

と、産婆さんは受け取ると、小男に送られて山道を下りました。

その夜、里の長者屋敷では、めでたいお祝儀があつて、たくさんのお祝いの品物や、のし袋に入れられたお祝いのお金が床の間に置かれ、ごちそうがならんで大にぎわいでした。

ところが、その中のし袋とごちそうの折り箱が一つずつ、いつの間にか消えていました。けれど、みんなは何も知らず、明け方近くまで大さわぎをしていました。

次の日、産婆さんは、赤ちゃんのことが心配になり、借りたちょうちんを返すついでに、昨夜の山道を登って行きました。しかし、いくら探しても、ゆうべ行つた家が見つかりません。

「こら辺ばつてんね…変なかね」と、首をかしげながら、また、山を下りて行きました。(御厨町田代)

■あなたの力作を募集!

—民話の感想画募集—

この民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上、左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。

応募いただいたイラストは審査をし、上位のものを次の市報で紹介しします。

【応募資格】

住所、年齢、性別など何も問いません。どなたでも応募できます。

【イラストの規格】

はがきまたはA4サイズ以内の白紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの（色鉛筆の場合は濃く塗ってください）。

【必要事項】住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢、職業（学校名）

※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。

※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。

※なお、いただいた個人情報、民話コーナー以外には使用しません。

【応募締切】7月15日（木）必着

【応募・問合せ先】

〒859-4598

松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課秘書広報係

☎0956-72-1111

Eメール=hsyoc@city.matsura.tg.jp

※福島支所、鷹島支所、そのほかの

各支所でも受け付けています。

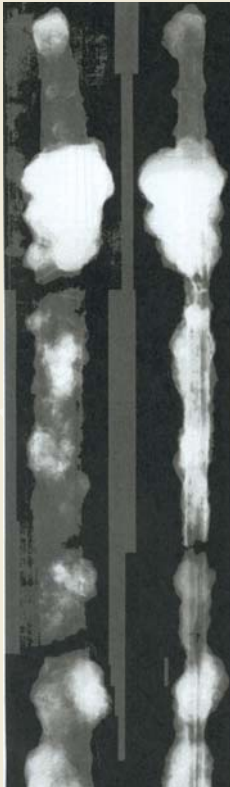
中世の松浦 (20) 鷹島海底遺跡

海底から出土している金属製品のうち、特に鉄製品は貝殻などを
含む海底堆積物を大量に取り込んださびに全体を覆われ、原型
をとどめていない状態で発見されます。海底という環境下で、陸
地の遺跡とは異なる形で錆化が進行しています。

しかし、X線写真撮影をすると細部にわたってさまざまな情報
を提供してくれます。その中で、刀剣は本来の刀身やそのほかの
装具の外形を見ることが出来ます。写真は全体に緩やかなS字状
のカーブをもつ刀で全長95^{cm}あります。また、反りを持たない素
環頭刀もあります。

S字状のカーブをもつ刀は日本・韓国・南宋のいずれの刀とも異
なる特徴を備えており、現状では元軍の蒙古人によって使用され
ていた可能性を持っています。

また、反りを持たない素環頭刀については南宋の領域で主に類
例が確認されており、江南軍のうち南宋出身の兵士により使用さ
れた可能性が考えられます。



▶ S字状の刀のX線CT画像

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの
審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「鬼の岩屋」のイラストに、3通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】

ペンネーム 三壘葵依さん (志佐・辻ノ尾、44)
「ニワトリがリアルに描けています。鬼の
岩屋もちゃんと描いてあり、必死に逃げる
鬼が面白く描かれていますね」(か)



【優秀賞】

K・Hくん (星鹿町、11)
「大きな鬼たちが焦って逃
げています。ニワトリを抱
えた彦四郎さんのホッとし
た笑顔がよく描かれていま
すね」(か)



【優秀賞】

A・Hちゃん (星鹿町、10)
「ニワトリの鳴き声を聞いて、
慌てた鬼たちが大きい岩を
抱えたまま逃げています。
残された足跡までしっかりと
描かれていますね」(か)